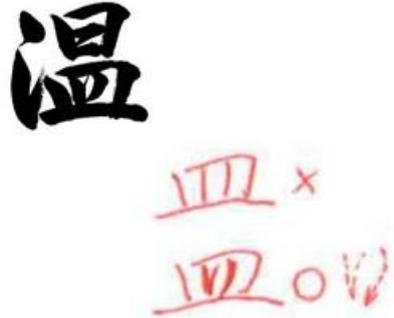


# 審査を終えて（中学校の部）

令和6年1月27日 本部書写委員会

学年	語句	審査員からのコメント		
中学校 一年	輝 く 未 来	輝	<p>① 「光」の二画から三画への呼応と四画から五画の連続</p> <p>○二画から三画への連続は全体によくできていました。</p> <p>△四画から五画の連続については、つながれずに四画の真ん中あたりから突きなおして書いているものが多く見られました。</p> <p>・四画から五画は「フ」のように直接連続させて書きます。下に膨らみすぎないことがコツです。</p>	
		輝	<p>② 「軍」の六画から七画への連続と、中心を通る最終画</p> <p>○六画から七画への連続は、連続させようとしている作品が多くありました。</p> <p>○中心を通る最終画については概ねよかったです。最終画の終筆は止めずに、穂先をまとめるようにして書きましょう。</p> <p>△六画から七画への連続は、線が太すぎて白が黒くつぶれて見えづらい作品がありました。</p> <p>・中の空間が広くとれるように、囲みの点画を書くときよいです。</p>	
		未	<p>③ 一画から二画への連続と五画目の形の変化</p> <p>△一画目から二画目の連続が難しかったようです。</p> <p>・一画から二画へは、穂先が紙すれすれの高さで動くように書くと、筆脈の連続が一画目の終筆や二画目の始筆に自然と表れます。</p> <p>○五画目の形の変化については概ねよかったです。</p>	
		来	<p>④ 六画から七画への筆脈の連続と七画目の「はらい」の筆使い</p> <p>△六画目の左払いの先端が下を向いている作品が多くありました。</p> <p>・左払いの先端は、払い切らずに穂先の毛をまとめて2時の方向に小さくはね出すとよいです。</p> <p>△七画目の右払いの筆づかいが難しかったようです。</p> <p>・右払いの筆使いは、楷書の右はらいぐらいの長さに引いて、はらわずに軽く止めるとよいです。</p>	<p>△左払いが下を向いている</p> <p>△右払いが楷書のような筆使い</p>

学年	語句	審査員からのコメント	
中学校 二年	温 故 知 新	温	<p>① 二画から三画への連続と「皿」の縦画の連続感</p> <p>○二画から三画への連続はおおむねできていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「皿」の縦画は、ひらがなの「り」を書くように次の画へのつながりが見えるようにするとよいです。</li> </ul> <p>また、縦画の間隔を同じくらいにするとよいです。</p> 
	温 故 知 新	故	<p>② 四画から五画への連続と、八画から九画への筆脈の連続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四画から五画は筆を離さず、Z型の動きで連続して書くとよいです。五画目は次の「つくり」の部分につながるように斜め上に向かっていと更によいです。</li> <li>・八画目はゆっくりと丸みを帯びるように「はらい」を書き、空中でα型に動き、九画目の始筆につなげるようにします。空筆部の動きを大切にしてください。</li> </ul> 
	温 故 知 新	知	<p>③ 二画から三画への筆脈の連続と「へん」と「つくり」の組み立て</p> <p>△二画から三画への筆脈の連続が形として見えにくい作品が多かったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二画目の終筆から三画目の始筆へ受けるように書くとよいです。Z型の運筆を練習してみましょう。</li> </ul> <p>△「つくり」が大きすぎたり、上に上がりすぎたりしてバランスが取れていない作品が多かったです。</p> 
	温 故 知 新	新	<p>④ 九画の省略による形の変化と、「斤」の連続感</p> <p>○九画の省略はできている作品が多かったです。八画目は払わずに、止めて、次の「つくり」の始筆の方向へ斜め上にはね上げ、空筆部につながるように書くとよいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「斤」の一画目から二画目がずれているため、連続感がなくなっているものが見受けられました。</li> </ul> 

学年	語句	審査員からのコメント	
中学校 三年	初志貫徹	<p>①「へん」の筆順の変化・省略とその形</p> <p>○ころもへんの筆順の変化、省略はおおむねできていました。</p> <p>△三画目を「ノ」のようにはらって書いている作品がありました。また、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一画目の位置が左に寄りすぎている</li> <li>・三画目の始筆が左に寄っている</li> <li>・二画目の横画より大きく出ているものなどが見られました。</li> <li>・三画目は「レ」のように折り返して書きます。点画の省略や筆順の変化で頻出する行書の書き方です。教科書の硬筆練習部分で習得させるなど、日常生活に生かす指導をよろしくお願いします。</li> </ul>	 <p>縦画からとびだしてはらい、「刀」の一画目へつながりをもたせる</p> <p>★はらいの形だけでなく、ころもへんであることを意識する</p>  <p>★折り返さずにはらう</p> 
	志	<p>②二画から四画までの連続感と、「心」の「はね」の方向と六画から七画の呼应</p> <p>△「心」の始筆を楷書のように書き、「士」の最終画から「心」一画目への流れが途切れてしまう作品がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二画→三画→四画は、稲妻のようにジグザグの動きで筆脈をつなげます。特に三画から四画は続けて書いてください。難しいところは部分練習をしてから、一字全体を書く練習をするとよいです。</li> <li>△「心」の「はね」の方向が六画目の点につながらないものが見られました（「呼应」がない状態）。</li> <li>・はねは、次の点画への筆脈のつながりが線になって表れたものです。行書でも楷書でも、次の点画の始筆部分へのつながりを意識して書くことができるよう、点画の方向を指導するとよいです。</li> </ul>	 <p>二画目をはらい、強くつき直さずに入り直す</p> <p>★筆脈の連続性を意識して筆を動かす</p>  <p>★「心」のはねの向きは内側に</p> 
	貫	<p>③「貝」の横画の間隔と、七画から十一画までの連続感</p> <p>△「貝」の二画目の位置が適当ではなく下の空間が狭すぎたり広すぎたりして横画の間隔が均等にならない作品が見られました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空間が三等分される位置に横画を書くよう指導してください。</li> <li>○「貝」の横画（七画目から九画目）の連続感はほぼできていました。<u>九画目から十画目への連続感</u>が出ると更によいです。</li> <li>・「志」の三画から四画の動きと同じ練習をするとよいです。</li> </ul>	 <p>十画目の入りをどんとつかないで、九画目から連続感をもたせる</p> <p>★筆の動きは「フ」の形で</p> 

初志貫徹

	徹	<p>④「育」の連続感と「女」の筆脈の連続</p> <p>○全体的には、繰り返し練習したことが分かり、行書の動きが滑らかな作品が多かったです。</p> <p>△「育」の三画目が浮いて線になっていない作品がありました。また、三画目の終筆で一度筆を上げ、五画目の始筆を楷書のようにドンとつけて書いている作品もありました。四画目が省略されていることを意識して書くとういでしょう。正しい書き方を動画等でよく確認する場を設定してください。</p> <p>△「女」の二画目から三画目、三画目から四画目への連続感がなく、二画目と三画目を直接折り返したり、楷書のように完全に離れたりしている作品が見受けられました。筆をどこで持ち上げるのか考えて書けるとよいです。</p>	 <p>「育」の画数を考えて、3画目を実線で書く</p> <p>★漢字の元の形を意識し、ただつなげるだけにならないようにする</p>  <p>★「女」の二画目と三画目の接続する場所に注意する</p>  <p>★「女」の三画目は四画目へ連続するため筆を返した形になる</p> 
--	---	---	--

⑤ 全体のまとめ・筆勢について

△「く」が小さくなりすぎて、全体のバランスが崩れてしまった作品が見られました。(1年)

- ・楷書と筆遣いが違うため、形の変化が発生する左払いや、右払いが難しかったようです。実際の範書や動画を見て習得させたいところです。(1年)
- ・行書の書き方を理解して、自然な動きになるよう練習を重ねるとよいです。(2年)
- ・線は連続しているものの堅さが目立ち、楷書のような書き方になっている作品が見受けられました。(1・2年)

<全体を通して>

- ・名前は学年に応じて行書でバランスよく書けるようにしてください。
- ・連続する線が次の画の方向へ向かっていない作品が見受けられました。常に次の画へ向かう意識があると、自然に線の動きに表れてくると思います。
- ・練習の初めに、元の文字がどのように変化したり、連続したりしているかを確認するとよいです。
- ・形は行書のようになっている場合でも、筆使いは滑らかではなく楷書的になっている場合が多々あります。楷書の筆遣いと比べて、丸みのある、滑らかな点画の動きになるよう動きやリズムを意識して練習するとよいです。
- ・範書はちょっと苦手という先生方は、YouTubeにUPされている書き初め課題の動画をご覧になり、ICT機器で児童に示すなど、ご活用ください。※「上国連」書き初めで検索。
- ・敷き写しや骨字、籠字など、作品として不正なものが出品されていました。敷き写しの作品は練習の段階でやるのはよいと思いますが、作品として出品されても、自力の作品ではないために審査できません。審査側としても非常に心苦しいのですが、これらの作品については無印の対応としています。出品前に手本に作品を重ねてみたり、手本を横に置いて確認したりして、作品として正しいものを出品するよう、御協力をお願いします。